

第44回 中国ミニバスケットボール大会出場報告書

2025、2、23～24(鳥取市)

川下ミニバス 監督 藤本 和久

創部41年目にして初めての中国大会出場です。夏の県決勝大会では2位が2回あります。最初の時は全関西出場という機会に恵まれましたが、その年の秋の県決勝大会は4位で出場することができませんでした。また、3年前は山口県開催で秋の県決勝大会5位まで参加できる時に、5位決定戦で1点負けて出場できませんでした。そんな思いが続いており、今回の出場は念願がかない喜びもひとしおでした。

(1)1日目 予選リーグ

○川下 対 羽合 (鳥取④)

1Q 9-0
2Q 10-13
3Q 10-13
4Q 6-10
結果 35-36

⑤のシュートで先制し調子に乗るかと思われたが緊張なのか、シュートがリングに嫌われることが多く、少しずつ追いつかれてきた。残り3分に逆転され4点差に開いたが、諦めずに追いあげて2点差とした。残り6秒から④の切れ込みでファウル。バスカンにはならず、フリースローを得る。残り0.2秒、緊張の中1本決めたが2本目を外し、延長にならず惜敗。

○川下 対 八雲 (島根①)

1Q 10-6
2Q 12-8
3Q 5-10
4Q 6-3
結果 33-27

相手チームには160cm以上が3人いるが、前半は分散するので1対1の攻めでリードを奪った。後半から168cmの高さに苦しめられて少しずつ追いつかれてきた。外のシュートが入らない。4Qの始めに2点差まで追いつかれたが、最後は気力でディフェンスを頑張り逃げ切った。2位トーナメントで5位を目指すことになった。

(2)2日目 2位トーナメント

○川下 対 ラビッツ (広島②)

1Q 9-13
2Q 14-8
3Q 12-8
4Q 8-8
結果 43-37

出だしからパスミスによるターンオーバーなどでリードされた。2Qに④のカットインなどで逆転した。後半もお互いに激しい攻防で一進一退の状況が続いたが、大応援団の声援が力となり、子ども達が頑張った。ゲーム終盤に⑥の速攻などが決まって10点差となり、4年生4名が初出場することができた。短い時間だったけど、小さい選手がディフェンスを一生懸命頑張っていた。

○川下 対 万寿 (岡山②)

1Q 13-9
2Q 8-12
3Q 11-18
4Q 12-8
結果 44-47

⑨のカットインなどが決まってリードするも、2Qは相手④のパワープレーに苦しめられ、前半は同点で終わった。3Qも一進一退の攻防が続いたが、ロングシュートを立て続けに3本決められ7点リードされた。4Q、チームスローガン「粘り強く、諦めない」を確認し、ディフェンスの頑張りや強気の攻めで残り1分1点差まで追いつけたが、最後にシュートを決められてゲームセット。6位入賞でした。

(3)所感

参加前は、予選を突破してベスト4以上を目指し、それが可能であると考えていました。しかし、中国大会に出場するのは各県の予選を突破してきたチームです。どこのチームも強いし、気力もすごかったというのが実感です。

4試合とも終わるまで気の抜けない試合ばかりで前半リードしても後半は追いつけられてドキドキした展開でした。また、フリースローの大切さを改めて感じました。接戦の中でどの試合も2つ外した場面があり、あれが1本でも入っていれば勝てたのに、流れが来たのに…と、反省です。子どもたちは他県での大きなカップ戦等を経験していますが、中国大会・山口県代表を背負っての参加ということで、開会式後の1試合目はかなり緊張していました。2日間の4試合で、全員とても良い経験ができたと思います。特に6年生にとっては良い思い出となりました。

(4)雑感「大雪で大変だった」

参加が決まった時、2月末なら最近の暖冬傾向でも若干の雪はあるだろうと覚悟はしていました。しかし1月末と2月初めの大寒波。もうないだろうとも思っていたら、さらなる大寒波（特に北陸山陰地方）。

22日朝8時30分、出発の時から岩国でも小雪が舞いました。安芸高田あたりから鳥取に着くまで約4時間雪でした。鳥取に着くと宿近くの鳥取砂丘が砂丘でなく10cmの雪丘でした。大会初日の朝は新雪20cm。2日目は新雪10cmでした。経費が掛かるので自家用やマイクロのレンタルも考えましたが、貸し切りバスで良かったと思いました。2日目朝、川下用バスが渋滞で遅れた時、同宿「光わかば」のバスに両方の子どもたちと指導者だけを乗せていただきアップ時刻に余裕で間に合いとても助かりました。保護者も遅れたバスでアップが始まった頃に到着し試合には間に合いました。「光わかば」の配慮に感謝です。

指導者や親は大雪による参加の影響を心配していましたが、子どもたちは初めての大雪に喜び、気持ちもリラックスしていたことが救いでした。

(5)最後に「感謝につくる」

中国大会参加に推薦いただいた県協会にお礼申し上げます。そして大雪の中、現地に派遣され支えてくださった山口県の役員・審判・MCの方々へ感謝いたします。特に見知らぬ人の多い中で県協会役員の皆様に出会い、声掛けしていただくと何かほっとしました。また、鳥取県協会・現地スタッフの方々も大雪の中での開催とても大変だったと思います。温かいおもてなし有難うございました。

参加にあたり、多くの卒団生、自治会・地域の方々、そして近隣チームなど多くの皆様に応援・支援していただきとても助かりました。また、保護者も多数参加して応援に来てくださり、大声援が子どもたちの励みになり頑張ることができました。すべての皆様に感謝です。

中国大会で学んだこと

川下ミニバス CAP 柴本美咲

私たち川下ミニバスは、創部から41年の歴史の中で初めて「県決勝大会で2位」という成績を収め、中国大会出場を決めました。「中国大会優勝」という目標を掲げ、「色んな人たちから応援してもらえるようなチームになるように頑張ろう！」と、チームみんなで準備を重ねてきました。

大会1日目。初戦は想像以上に、ものすごく緊張しました。みんななかなか思うようなプレーができず、流れに乗りきれず、苦しい時間が続きました。2回戦以降は、気持ちも吹っ切れてギアが入ってきましたが、全ての試合が接戦で、心の中ではずっとドキドキしていました。こういう試合では、1つ1つのプレーが大切に重みがあるということが、改めてよく分かりました。そして、気持ちの糸を一瞬でも切らしたらすぐに流れが変わるという、試合に勝ちきる厳しさも学びました。

冬の鳥取は大雪でした。そんな中、早朝の雪かきを始め、安全に試合ができるよう支えてくださった大会役員の皆様、ありがとうございます！山口県競技役員の皆様、見知らぬことの多い鳥取の地で、みなさんの顔を見るとものすごく安心し、心強かったです！お世話になりました。この大会を通して気付いたこと、学んだこと、経験させていただいたことを、これからのバスケ人生に必ず生かしていきます。ありがとうございました！！